



節句人形の

『素朴なギモン』コーナー

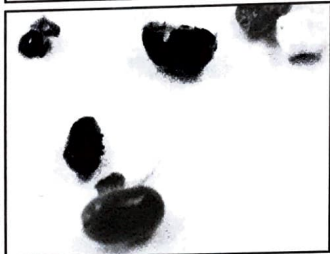
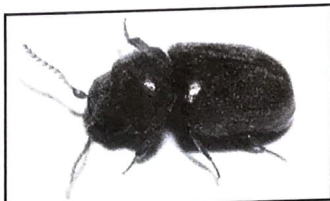
Vol. 10

衣裳着・木目込ボデ
イの防虫

衣裳着人形の藁胴や木目込人形の桐塑ボディなどから虫が発生する被害が起こっている。

これは、どのような虫が発生しているのだろうか？また、このような虫が発生した場合、どのように対応したらよいのか？

今回は「衣裳着の藁胴と木目込の桐塑ボディの防虫」について。

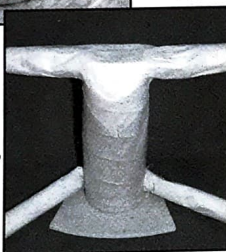


タバコシバンムシ(煙草死番虫)。貯蔵食品害虫として知られるシバンムシの一種。世界中の熱帯、温帯圏に広く分布し、日本全土にも分布。多くの家庭で発生し乾燥食品など乾燥動・植物質を食害。絹は食べない



▼衣裳着の藁胴に虫の餌

▲木目込ボディの桐塑は、正麩糊を混ぜる。この正麩糊が虫の餌に



衣裳着・木目込のボディに発生する虫で最も多いのは、タバコシバンムシという調査結果が出ている。この虫は名前の通り、貯蔵葉煙草(乾燥植物)を食害する。実際は煙草よりも加工穀類を好み、小麦粉、素麺など乾麺、乾パンなどで最もよく発育する。乾燥食品のほかに、種子、ドライフラワー、肥料用の油粕、ウール等の動物繊維が被害を受け、代表的な文化財産虫として

知られる。世界中に広く分布し、日本の一般家屋のほとんどに生息、上記の餌のほか畳も餌とし、年4回繁殖、代替わりを続ける。幼虫は餌のなかに潜伏して生活し、円い孔をあけ木屑や糞などを排出する。あまり徘徊しないため殺虫剤が効きにくい。

発生経路は、衣裳着の場合、元々藁のなかに生息していたものと、後から藁を食べるに侵入してくるものがある。木目込は、桐塑のボディを作る際に使用する正麩糊(でんぷん)が、虫の餌となり発生する。



専門の加熱処理機による藁胴の殺菌・加熱処理

侵入経路は、衣裳着、木目込

ともにボディは、乾燥加熱処理がなされるが、①熱処理の生き残り(乾燥不足等)②人形製造の工程時に侵入③出荷後に店や家庭で侵入すると考えられる。

駆除は、くん蒸(バルサン類)

も効果があるが、内部まで薬剤が到達しづらい。製品に発生した場合、くん蒸または底に小さな穴をあけ、内部に薬剤(アリス)を注入し殺虫するメーカーもある。一般的に、70℃以上であれば成虫・幼虫とも死滅する。卵は耐熱性が高く、200℃で15~30分の加熱が必要とされる。加熱処理の工夫として、各店で、電子レンジなど用いる話も聞かれるが、発火する可能性もあり、お勧めできない。人形用の防虫剤(衣裳用)に含まれるエンベントリン成分も効果があるとされる。また藁胴に噴霧して防虫効果を高める薬品も開発中だ。

予防策は、発生源となる餌を遠ざけ、換気をよくし湿度を下げるなどが挙げられる。

《協力/ ぬいふじ人形、(株)寿屋人形、(株)倉片人形、(株)真多呂人形、エステー(株)》